

今日の福音は、イエス様が祈っておられたことから始まります。そして、イエス様が祈りを終えた後、一人の弟子がイエス様に祈りを教えてくださいと願いました。そこで、イエス様は弟子たちに「主の祈り」を教えてください、さらに、祈るとき心の姿勢についても教えてくださいました。その心の姿勢は、「忍耐」と「信頼」とにまとめられます。イエス様はこの二つのことをそれぞれ、「真夜中に友達の家に行って、旅をしている他の友達のためのパンを求める人」と、「自分の子供にわざと悪いものを与える父親は誰もいない。」という例えをもって教えられました。

考えてみたら、真夜中に友達にパンを求める人は、ただ友達だからという理由だけでは、それを貰えないかもしれませんが、執拗に願うならば、相手はあきれてそれを与えてくれるはずでしょう。同じく、神様に祈るときには、忍耐力を持って切に祈ることが大事です。それについては、今日の第一朗読にもよく示されていますが、アブラハムはソドムとゴモラを滅ぼそうとしておられる神様と大胆なやり取りをしました。アブラハムはソドムとゴモラにいるかもしれない五十人の義人たちに言及しながら、彼らのためにも滅ぼさないでほしいと願ったのです。神様はそれを聴き入れられましたが、それから始まったやり取りの結果、アブラハムはその人数を十人にまで減らすことができたのです。勿論、結果的にソドムとゴモラは神様の怒りを避けられず滅ぼされましたが、このやり取りから、わたしたちは忍耐力を持って切に祈ることの大事さが分かります。その忍耐力と共に、神様に信頼することも大切なことです。イエス様は「あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えるこ

とを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」と言われました。人間がそうだとすれば、神様は言うまでもないということでしょう。しかも、神様はご自分の子供たちに一番良いものとして、聖霊を与えてくださる方です。今日の第二朗読にも書いてありますが、わたしたちは洗礼によってイエス様と共に葬られ、イエス様と共に復活させられた人なのです。神様はその事実を証明なさるために、わたしたちに聖霊を授けてくださったわけです。言い換えれば、聖霊は神様ご自身が自らを、信頼できる存在であることを証しするために送られた方なのです。ですから、わたしたちはその神様の慈しみと愛を信じ、絶えず祈りながら、自分の願い通りになることより、神様のみ旨に従って生きることを願うべきです。

こうしてイエス様は、祈るときの心の姿勢についておっしゃいましたが、その前に「主の祈り」を教えてくださいました。主の祈りは祈りの手本のようなもので、わたしたちは主の祈りから、何を祈るべきかが分かります。それはまず、「神様の御名が崇められること」と、「御国が来ること」なのですが、どちらも神様ご自身がなさることのように聞こえます。勿論、その通りなのですが、ある意味では、「わたしたちが神様の御名を崇め、その御国の到来のために働けますように」と、願うことでもあると思います。どうすれば、それを成すことができるでしょうか。それはまず、「すべてのいのちを大事にすること」だと思います。なぜなら、神様の御名は神様ご自身がかつてモーセに明言された、「わたしはある。」であるからです。すなわち、神様はすべてのものの創造主であり、いのちあるすべてのものにいのちを授ける方であるので、わたしたちがいのちを大事にし、それを守るために働くことによって、

かみさま みな あが 神様の御名は崇められるということです。また、かみさま みくに とうらい 神様の御国の到来のために、わたしたちはよ なか つみ あく たたか 世の中のあらゆる罪や悪と戦わねばなりません。このふた つのことはどちらが か 欠けてもいけないことで、たと 例え、いのちをだいじ 大事にしながらあらゆる つみ あく め 罪や悪から目を そらすのも、ぎやく 逆に、すべての つみ あく たたか 罪や悪と戦いながらいのちをかる 軽んずるのも、それじたい 自体があく 悪だからです。

このように、「かみさま みな あが 神様の御名を崇め、そのみくに とうらい 御国の到来のために はたら 働く」のはわたしたちの つと 務めでもあり、それを は 果たすために しゅ いの こうはん 主の祈りの後半は、まいにち かって ねが 毎日の糧を願うことから はじ 始まるわけです。でも、その かって 糧とは、ただ からだ けんこう ささ 体の健康を支えてくれる た もの い み 食べ物の意味だけではありません。じつ 実にわたしたちには もっと たいせつ 大切な かって 糧があり、わたしたちは きょうも その かって 糧をいただくために、このせいどう あつ 聖堂に集まっているのです。それはいうまでもなく、いへすさま おんからだ イエス様の御体でしょう。その かって 糧を ふうさわ 相応しくいただくため、ときには ゆる ひせき 赦しの秘跡を おこな ある じぶん あやま つみ ころふか く あらた かみさま ゆる めぐ 行い、或いは、自分の過ちや罪を心深く悔い改めて、神様からの赦しの恵みをいただくのです。しかし、その めぐ 恵みをいただくためにはある だいじ ぜんてい 大事な前提があります。それはわたしたちが たが ゆる あ 互いに赦し合うことです。それは しゅ いの か 主の祈りにも書いてある とお 通り、「わたしたちの つみ ゆる 罪を赦してください。わたしたちも じぶん お め 自分に負い目のある人ひと みなゆる を皆赦しますから。」ということです。そして、しゅ いの さいご 主の祈りの最後に、わたしたちを ゆうわく あ 誘惑に遭わせ ないことを ねが 願いつつ、かみさま こども きひん うしな きよ もの 神様の子供としての気品を失うことなく、いつも清い者として い 生きていくことができる ようにと 祈るのです。

さて、きょう 今日イエスさま いの おし 様に祈りを教えてくださいと ねが 願ったあの でし 弟子は、きっとヨハネが じぶん でし いの おし し 自分の弟子たちに祈りを教えたことを知っていたでしょう。そしてかれ 彼は、イエスさま が

いの 祈っておられる 間、その すがた をじっと見つめていたに違いありません。かれ 彼にとってヨ
ハネの 弟子たちや、いの 祈っておられる イエス様がどれほど 羨ましかったでしょう。周
りの人たちに 祈っている 自分の 姿を見せるのは、恥ずかしいことでも、偉い人のよ
うに見なされることでもありません。むしろ、それは 信仰のある人たちの あたり前の
すがた 姿であり、その すがた と祈りによって、みんなが 共に 成長することとなります。特に
かてい 家庭で、こども 子供たちに 祈る 親の すがた 姿を見せるのは、かみさま 神様からの めぐみ をもっと 豊かにいた
だけることでもあります。これから、わたしたちの 共同体が 祈りを通して 神様とも
っと 親しくなれるよう、お祈りいたします。